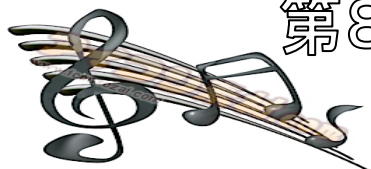


とらいあぐる菅生

http://sugaochikyou.web.fc2.com

E-mail:toraianguru@mx81.tiki.ne.jp



第8回 菅生音楽祭

出演者募集



昨年度の風景

<地域で支え合い、生きる力を育てよう!>

開催日:12月10日(土)

開催場所:菅生中学校 体育館

主催:菅生中学校区地域教育会議

募集演目:☆合唱 ☆太鼓演奏 ☆ダンス ☆踊り

☆合唱箏曲 ☆吹奏楽 ☆琴などの演奏

☆コーラス ☆その他

応募資格:菅生中学校区内で活動しているグループ

応募期限:11月10日(木)まで

※出演枠は若干、応募多数の場合は抽選

応募連絡先:地域教育学習委員会委員長古川宛て

☎090-2483-1266

菅生中学校区3校紹介

菅生中学校

松井隆夫 校長



菅生中学校の教育目標は、「教養のある文化人・情操豊かな人・たくましい実践力・強じんな体力」という「知・情・意・体」の4本の柱です。中でも「文化人」という言葉に、本校の特色があると思われれます。文化とは、内面からわき出る精神の働きが作り出すものです。本校で学んだことをうわべの知識として留めることなく、他者を思いやる心や自分を愛する心を大切にできる「文化人」として成長していくことを目標にしています。

菅生小学校

柴崎淳 校長



菅生小学校に赴任して、6年目になります。この6年間子どもたちに伝えたかったことは、合唱の日常化です。合唱を通して、子どもたちに協力の大切さ、自分の心に打ち勝つことの大切さを知ってほしかったからです。歌も上手になりましたが、歌を聴く態度もよくなりました。聴くことは、人間関係をよくする第一歩です。また、豊かな心を育成できる最良の活動だと思っています。今後もずっと歌い続ける菅生小であってほしいと思います。

稗原小学校

岡部養一 校長



地域の中の学校として学校、家庭、地域と連携しながら、『夢いっぱい笑顔はじける稗原小』を合言葉に学校づくりに取り組んでいます。子どもたちには、「先生も、親も、地域の人もみんなで応援しているので、みんなで何をしたらよいか、何ができるかよく考えて行動しよう」と常に投げかけています。そして稗原小学校で生活や勉強ができて本当によかった。居心地が良くてほっとできたと思える日本一素敵な学校づくりを目指しています。

報告

生涯学習委員会 菅生中学校での学習支援

夏休みの“プラス1”

毎月3日間おこなわれている菅生中学校への学習支援活動“プラス1”は、夏休みには、中学校の「夏休み学習相談」の中に組み込まれて活動しました。期間は、8月22日～26日の5日間連続で、1時間目は1年生、2時間目は2年生、3時間目は3年生と教室を移動して開かれました。科目は数学と英語、講師は地域に住む方々。いつもの講師に加えて、夏休みは講師陣が多彩です。大学生や、菅生中学校卒業生、さらに、リトアニア出身の女性講師も参加して、楽しい英語でのコミュニケーションも行われました。学校の先生方、生涯学習委員や菅生分館の館長も加わって総勢20人が生徒の学習をサポートしました。

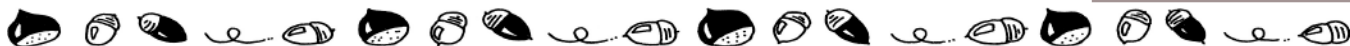
毎日ほぼ50人の生徒がやってきました。学校から出された夏休みの課題や講師が準備したプリントを使

って、英語と数学の基礎基本問題に熱心に取り組みました。わからないところは講師が個別に対応。生徒のほとんどが続けて通ってきて、効果が見えてきました。

“プラス1”の学習は、わからない箇所を見つけ、解決するところ。5日間連続しての実施は、個々の生徒を継続してサポートできることにより、“プラス1”活動の、より成果が得られるいい機会となりました。

「少しずつでもできるようになった生徒たちがいたのが嬉しい。それでも側につきっきりでサポートできた生徒と、サポートすべきだったのに、手が回らなかった生徒がいたのは残念だった」とは、講師共通の思いであり、できるだけ多くの生徒に個別に対応していくためには、講師増員が今後の課題となっています。

| | | | | |
|-----------|---------|------|---------|--------|
| 学年別延べ参加人数 | 1年生 | 122名 | 数学：102名 | 英語：20名 |
| | 2年生 | 94名 | 数学：49名 | 英語：45名 |
| | 3年生 | 58名 | 数学：36名 | 英語：22名 |
| 科目別延べ参加人数 | 数学：187名 | | 英語：87名 | |
| 総延べ参加人数 | 274名 | | | |



子どものための 学習支援ボランティア入門 が始まりました

いよいよ9月30日から学習支援ボランティア入門講座が菅生分館との共催で始まりました。参加者は25名。年齢も経験もさまざま。遠く幸区からの参加も…。小・中でのボランティア講師や関係者が15名、新しい参加者10名。その中で市民の新たな「であい」も生まれています。

初回は佐藤晴雄日本大学教授に「学習支援ボランティアって？」をテーマに「開かれた学校」の意義、学校と地域の連携、支援ボランティアの意義といった学習支援の根本についてさまざまな事例を通して伺いました。

参加者からは「参加した人たちとの新しい出会いがあってワクワクした」「子ども達の将来に手を携えるこ



との大切さを知り、実践に活かしたい。授業にボランティアが入ることで学校が変わるなら関わりたい」などと感想がありました。

今後、三校の事例や市内の先進的な事例等から子ども達のために地域の大人に何ができるかを探っていきます。さらに講座終了後も希望者を対象に実際の活動の見学をしていただけるよう、現在三校と調整中です。この講座を通して子どもの育ちを支えるボランティアがさらに地域に広がっていくことを大いに期待しています。

3

道親ネットワーク 団体紹介

平瀬川流域まちづくり協議会

9月10日、平瀬川流域まちづくり協議会事務局長、松井隆一氏よりお話を伺った。平瀬川流域まちづくり協議会(以下平瀬川協議会と略す)の目的は、「まちづくり」であり、まちをつくるというハード的側面と、そのまちに住む人の生活を基盤に人と人の絆を結っていくというソフト的側面の両面を大切にしている協議会だ。

従って、直接的には子どもを対象としてはいないが、間接的に地域市民として子どもとの関わりを持っている

◆発足

平瀬川協議会の前身は蔵敷商店会だ。1990年、学習会で「平瀬川を生かすこと」と講師からアドバイスされたことから「親水」のイメージをもった。「親水護岸工事」を市に申し入れるが難航した。

1993年、市長へ要望書を提出。1994年「みんな集まれ平瀬川流域マップ」を地元の学校の協力を得て完成させた。このマップ作りから学校が「環境教育」に平瀬川を生かして取り組みを始めている。

◆七夕サミット

1996年、第1回「七夕サミット」を開催。流域の小中学校も川の清掃活動に参加し、今年12回と回を重ね、この清掃活動は今も続いている。

他に、子どもたちの研究発表や、イベントにも子どもたちがサミットでは活躍。学校の理解と共に向丘地区から稗原地区までの子どもたちがサミットには参加し、学校の持ち回りで開催されている。今年は菅生小学校で開催された。

◆魚の住む川に

松井氏が子どもの頃、平瀬川で魚を釣り、ウナギもとったりした思い出がある。次代の子どもたちにそんな平瀬川を残していきたい。

そのために2007年からアユの放流を始めた。最近、アユが平瀬川にすみつくようになった。菅生小学校下流の合流地点には肉眼でも多くのアユを見ることができ

る。今度、投網を借りてきて、アユをとって大人たちで食べようという計画がある。「せっかくすみつくようになったのに食べちゃうの？」との声もあるが、「楽しみがあり、遊びがなくてはこうした運動は長続きしない。まず自分たちが楽しまなくては」と松井氏は語る。

◆子どもたちに発表の場を

「七夕サミット」でも「桜まつり」でも、子どもたちの発表の場を常に意識している。子どもたちは、何



アユの放流

よりも認められる事が大切だ。太鼓をたたいてもらったり、踊りを披露してもらったり、研究の成果を発表して頑張った姿を評価され、また、その姿を見て大人たちが触発される。

平瀬川協議会には、直接的な子どもたちとの関わりは常にあるわけではないが、地域の中の子どもの発表の場を用意することで子どもたちが自然に平瀬川を感じとってくれている。

◆平瀬川・遠い季節のぬくもり

平瀬川の歌がある。2005年にCD化したもので、「この歌は流域の人なら誰でも歌えるようになってほしい。」と松井氏は目を輝かしながら語る。歌詞は寺尾央氏、作曲は菅生中の生徒だそう

だ。歌詞のように「蕨芽を吹く」「蓮華花咲く」「河鹿鳴く」、そんな平瀬川が再び地域に生かして行くという活動は貴重だ。流域の市民は、「平瀬川は宝である」ことに気がつき、流域のまちの人たちの「環境」への目覚めが始まっている。

その市民に、子どもたちが仲間に加わっていることが菅生の将来にプラスの方向で力を出していくことだろう。

蔵敷交差点に飾られた七夕飾り



9月11日 3校連 親睦ソフトボール大会開催

3校連とは、菅生中学校区の菅生中・菅生小・稗原小の3校PTAの連絡会。PTA会長・副会長などが集い、様々な情報交換を行ってきた。今回のソフトボール大会は「菅生小・稗原小の多くの保護者は、いずれ菅生中の保護者として一緒になるのだから、役員だけでなく、保護者同士が早い段階から顔見知りになっていると様々な場面において有益ではないか」ということで、初めて開催された。

当日、各校から保護者だけでなく教職員も参加し、多数の参加者で盛大に行われた。結果は、優勝が稗原小、2位が菅生中、3位が菅生小A、4位が菅生小Bだった。楽しく親睦を深め、試合後は蔵敷自治会館において懇親会が行われた。

「今後もこのような親睦を続け連携を深めていきたい」という主催者挨拶もあり、回を重ねる毎に、菅生中学校区の連帯と連携が増していくことが期待される。



菅生こども文化センター

9月8日(木)から、市民自主学級「人生の最終章を安心して生きるために」が始まった。定員を会場の関係から100名としていたが、申し込み開始直後に一杯となった。その後も受講希望の電話は止まらず、初回の様子を見て二回目から総勢140名での受講となった。

第一回目の講座では、高度医療機関と家庭医それぞれの適切なかかり方を、第二回目には、在宅、施設、病院、種類と料金はどのようになっているのかを勉強した。次回は「延命処置と尊厳死」について。家族は医者から延命についての「選択」を求められた時、どうするか。必ず訪れる死を、どのように迎えるか、自分のためにも、家族のためにも考えておかなければならない問題だ。

菅生中学校 文化教室

「子どもの権利って？」

10月22日(土) 9:00~11:00



菅生中学校で行われる文化教室では地域の講師によるさまざまな授業が行われ、中学生にとってはふだん学べないことに触れる機会になっています。

地域教育会議からも毎年「子どもの権利って？」の講座を開いています。ふだん、あまり気にしない子どもの権利について、簡単なクイズやワークショップを通して考えます。子どもにとって「子どもの権利」は大人へとひとり立ちしていくための基本。大人が気にする「権利とわがままの違い」についても理解を深めます。

蔵敷 こども文化センター さんままつい

～プログラム～

さんまの季節がやってきた

東北の海からの恵みに感謝!!

日時：10月15日(土)

10:40～・・・オープニング

11:00～・・・さんま販売開始

炭火で焼いた、旬のおいしいさんまを食べちゃおう

一尾：200円 塩おにぎり 50円 飲み物 60円

10月1日(土)～13日(木)までセンターで前売り券を販売。当日若干現金売りあり。

売り上げの一部を被災地へ義援金として寄付